

BUSINESS REPORT

第18期 株主通信

2014年4月1日 ▶ 2015年3月31日



株式会社バイ・テクノロジー
(証券コード:7717)

トップメッセージ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ブイ・テクノロジーは、フラットパネルディスプレイ (FPD) 製造プロセスの上流から下流までカバーする豊富なラインナップとイノベーティブな技術でお客様価値の向上をサポートする、FPD製造装置メーカーです。2015年3月期の決算が終了いたしましたのでここにご報告いたします。

当期における事業環境について、中国経済は成長が鈍化していますが底堅く推移しており、欧州経済は緩やかな景気持直しの兆候がみられ、米国経済は概ね安定的に拡大基調が続きました。また、わが国経済は、消費税引上げによる消費落ち込みの影響があったものの、財政・金融政策の後押しにより、緩やかな回復基調で推移いたしました。当社グループの主要な市場であるFPD製造装置の市場では、スマートフォン、タブレット用の中小型液晶パネル及びテレビ用大型液晶パネルに関連した設備投資が、主に中国で行われました。また日本、台湾においても既存設備の更新や能力増強に関する設備投資が行われました。

このような環境の中、当社グループは中国、日本、台湾、韓国といった国内外のパネルメーカーに拡販活動を行ってまいりました。

受注金額は、主に中国、国内向けの検査関連装置及び露光装置の受注、国内外向けの関連消耗部品及びメンテナンス等の受注により、226億7千9百万円(前年同期131億8千7百万円)となりました。なお、受注残高は127億8千8百万円(前年同期65億6千4百万円)となりました。この結果、売上高164億5千6百万円(前年同期売上高130億7千5百万円)、営業利益は8億6千2百万円(前年同期営業利益4億7百万円)、経常利益は10億5千3百万円(前年同期経常利益4億3千5百万円)、当期純利益は5億3千3百万円(前年同期当期純利益2億2千3百万円)となりました。

当社の配当についての基本方針は、将来の事業拡大や経営基盤強化の為に必要な内部留保の充実を図りつつ、配当の安定性・継続性を考慮の上、経営成績に応じた利益還元を行うこととしております。具体的には配当性向10%以上を目標とし、今後の事業環境(収益、投資、研究開発支出など)を勘案し配当を決定しております。2015年3月期の期末配当金は、一株につき18.75円(通期配当は37.5円)といたしました。

今後も、当社グループは株主の皆様のご期待に沿えますよう、企業価値の最大化を目指した経営を進め、業績の向上を図るとともに、大いなる志と溢れる情熱で、世界最高のイノベーションを創造し社会に貢献していく所存です。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2015年6月



代表取締役社長
杉本 重人

NSKテクノロジー株式会社の株式取得(子会社化)について

Q1: NSKテクノロジーはどんな会社ですか？

母体は日本精工株式会社で、高度な駆動機構や制御技術を結集した露光装置を電子産業向けに展開されていて、昨今ではフラットパネルディスプレイ (FPD) 関連の露光装置を数多く販売されています。大型液晶パネル用カラーフィルターの分野では圧倒的なシェアを保持しています。

Q2: なぜNSKテクノロジーと取引があったのですか？

当社は、2005年頃に露光装置の製品化に着手していましたが、露光装置のような365日、24時間ほとんど絶え間なく稼動する製造装置の製品化は初めてのことでしたので、その過程に深く関わっていただきました。それが初めての取引で

Q3: なぜ子会社化したのですか？

当社は、イノベティブなアイデアでいろいろなソリューションが提案できます。ここにNSKテクノロジーの技術やノウハウを組み合わせることができれば、もっと信頼性の高いソリューションを届けることができると思いました。

また、当社の検査装置ビジネスに、NSKテクノロジーのカラーフィルター用露光ビジネスが加わることで、もっと面白い提案ができると思いました。例えば、当社はカラーフィルターライン向けでいろいろな検査装置を用意できますが、これにラインの要である露光装置をセットで販売できれば、フォトリソプロセスの一貫提案が可能です。

加えて、FPDの設備投資環境もずいぶんよくなっています。カラーフィルター工程、光配向工程向け露光装置の需要拡大がいつそう期待できますし、他にもいろいろメリットがあると考えています。

す。製造装置の製品化には連続稼動に堪える信頼性、それを支える精密位置決めステージの技術など、必要とされる要素が無数にあります。豊富な実績を持つNSKテクノロジーにお願いし、すばらしい装置を送り出すことができたと思います。そのころから、いつかFPD用の世界最高水準の性能を実現する露光装置の製品化を実現する為にも、こういう人たちと一緒にものづくりをやりたいと考えていました。



(写真) 記者会見(2015年4月21日)
左 日本精工株式会社 大塚社長(現会長)
右 当社 杉本

Q4: 連結結合日はいつですか？

2015年6月1日です。

Q5: NSKテクノロジーの社名は変わりますか？

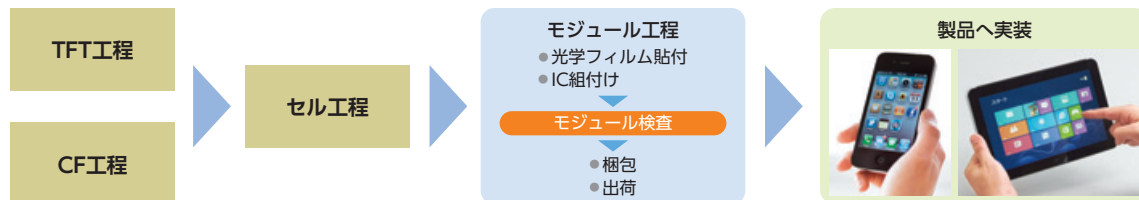
6月1日から、株式会社VNシステムズという社名になります。Vテックグループの「V」とNewの「N」からなります。オフィスは、当社のある横浜ビジネスパークの5階へ移転します。一緒に同じビルで仕事ができるようになり、これからがとても楽しみです。

バイ・テクノロジーのモジュール自動検査装置

モジュール検査とは

ディスプレイをさまざまな商品(テレビ、スマートフォン、ノートパソコンなど)に組み込む前に行われ、ディスプレイに画像が正常に表示されているかをチェックします。ディスプレイ製造工程において、不良品の出荷を水際で食い止める大変重要な検査といえます。

(図) FPD製造工程概略



モジュール検査の現状、課題

モジュール検査の多くは人の目視によります。ディスプレイは大小さまざまな種類があり数も膨大です。そのため、数多くの人員が必要とされており、その検査の多くは人件費の安い新興国で行われています。経験豊富な検査員は非常に高速かつ正確に各種ディスプレイ

上の欠陥を発見、良否を判定できます。しかし、成長著しい新興国において人件費は急激に上昇しており、優秀な検査員を常に多数確保することは非常に困難です。

自動化のメリット

目視による検査は、検査員の体調やスキル等の影響で、検査品質がばらつきます(検査員により判定結果が異なる、体調不良による欠陥見逃しなどが発生)。しかも検査品質を一定に保つためのトレーニング等にコストがかかります。自動化することで、検査品質を高い水準で一定に保つことができ、かつ検査ラインの維持費の低減が可能となります。月産130万台の中小型パネルモジュールを生産する工場において、約5000人程度の検査員が作業に従事していますが、自動化により人員及び年間コストを大幅に削減可能です。

モジュール検査のマーケット

液晶パネルの生産数量は年間33.4億台*といわれています。また、労働集約型のこの作業の多くは、新興国、特に中国で行われています。ほとんどのモジュールが目視検査されている中、まだ4000~4500台分*の自動化需要が残されているといえます。個々のお客様ニーズに応えるカスタマイズされたソリューションをどこまで提案できるかが、今後の自動検査装置普及に向けた重要なポイントであると考えられています。

今後の見通し

2014年の秋より正式に販売を開始しておりますが、順調なスタートを切ることができました。今年も、数多くのお客様から引き合いを頂戴しております。今後の展開に是非ご期待ください。

*当社調査による。

独立行政法人科学技術振興機構「産学共同実用化開発事業」へ 当社の開発課題が採択されました。

当社は、独立行政法人科学技術振興機構の産学共同実用化開発事業(以下「NexTEP」)*の第4回募集に応募しておりましたが、2015年3月1日付けで開発課題「大型フラットパネルディスプレイ向けレーザアニール技術」として正式に採択されましたのでご報告いたします。

開発課題「大型フラットパネルディスプレイ向けレーザアニール技術」は、国立大学法人 山形大学 大学院理工学研究科 城戸淳二教授のレーザアニール処理**に関するシーズ特許を利用した新しい大型・高精細フラットパネルディスプレイ向けのレーザアニール技術で、処理効率を飛躍的に向上し、ランニングコストをも低減可能にする技術です。2015年3月1日より本開発を開始し、次世代の大型・高精細フラットパネルディスプレイ、例えば巻き取り可能な大型フレキシブルスクリーン等の製造に貢献する製造装置としての実用化を目指しています。

* 産学共同実用化開発事業について

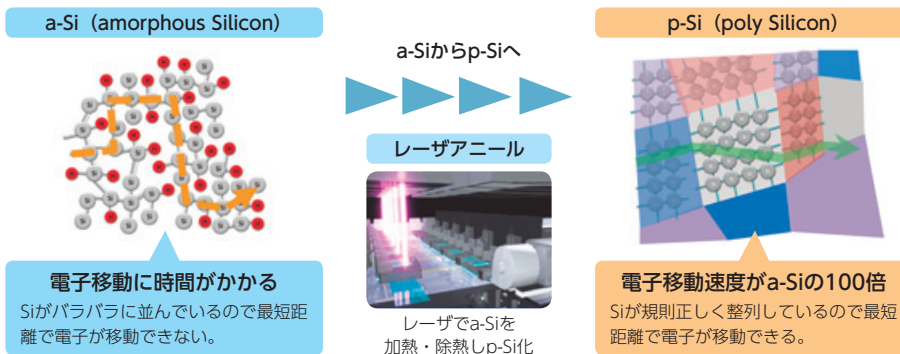
NexTEPは、大学などの研究成果に基づくシーズを用いた、企業単独では困難な開発を支援し実用化を目指す、産学連携プロジェクト支援事業です。

** レーザアニール処理とは

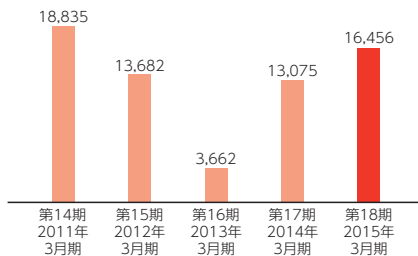
フラットパネルディスプレイ (FPD) はガラス基板上に薄膜トランジスタ (TFT) を低温で形成しなければならないため、低温処理プロセスが必須となっています。一方で、次世代のディスプレイの大型化や高精細化には電子移動度の高いポリシリコン半導体膜が必要です。

このような低温ポリシリコン (LTPS) プロセスにおいてポリシリコン半導体膜を形成するには、低温処理プロセスで成膜されたアモルファスシリコン半導体膜に紫外線パルスレーザ光を照射し、ガラス基板の温度を上げずに瞬間的にアモルファスシリコン半導体膜のみ熔融、再結晶化 (ポリシリコン化) させるレーザアニール処理が使われています。

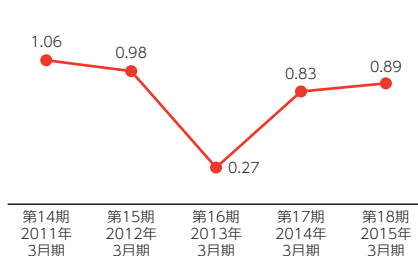
(図) レーザアニールによるポリシリコン化



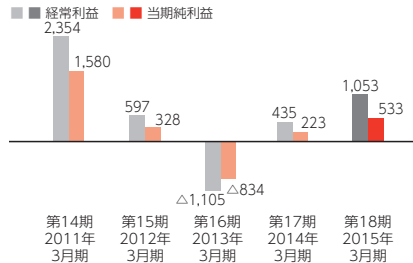
売上高 (百万円)



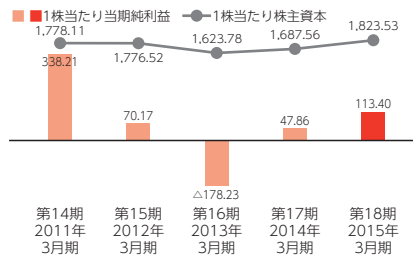
総資本回転率 (回)



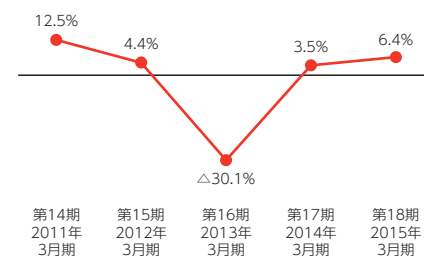
経常利益/当期純利益 (百万円)



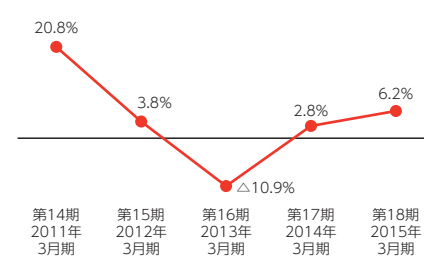
1株当たり当期純利益/1株当たり株主資本 (円)



経常利益率 (%)



ROE (%)



(注) 1株当たりの情報については過去に遡って株式分割等に伴う調整計算を行っております。

● 2016年3月期(第19期)の業績見通し

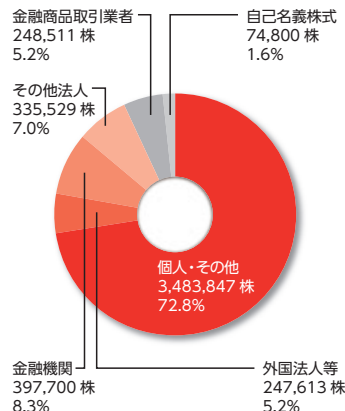
	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり当期純利益 (円)
業績予想	26,000	2,000	1,850	950	円 銭 201.56
(ご参考) 前期実績	16,456	862	1,053	533	113.40

VNシステムズ(旧NSKテクノロジー)の業績が2015年6月1日以降連結される為、前期より大幅な増収増益を見込んでおります。FPD設備市場は、引き続き前期と同一水準で推移するものと見込まれており、スマートフォンなどの中小型高精度液晶パネルの設備投資、テレビ向けの大型高精度液晶パネルの設備投資並びに有機ELの設備投資が見込まれております。

※業績見通しについては、現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいております。予想にはさまざまな不確定要素が内在されており、実際の業績は種々の要素により業績予想とは異なる場合があることをご承知おください。

株式の状況 (2015年3月31日現在) Stock Information

- 発行可能株式総数 17,590,300株
- 発行済株式総数 4,788,000株
- 株主数 6,889名
- 株式所有者別分布



大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
杉本重人	544,300株	11.6%
新菱冷熱工業株式会社	233,300株	5.0%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	81,000株	1.7%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	50,900株	1.1%
香川立男	50,300株	1.1%
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	46,191株	1.0%
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	46,101株	1.0%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口6)	43,500株	0.9%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口1)	43,300株	0.9%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口2)	42,700株	0.9%

当社は自己株式74,800株を保有しておりますが、上記から除いております。

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月に開催
- 配当金受領株主確定日
 - ・期末配当金 3月31日
 - ・中間配当金 9月30日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関
 - ・同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
TEL：0120-232-711 (通話料無料)
 - ・同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
- 上場証券取引所 東京証券取引所 (証券コード 7717)
- 公告の方法 電子公告とします。但しやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載します。公告掲載の当社ホームページアドレス <http://www.vtec.co.jp>
- 株式の分割 単元株式制度採用に伴い、2014年3月31日(月)を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主が所有する普通株式を、1株につき100株の割合をもって2014年4月1日付で分割いたしました。

(ご注意)

- 1.株券電子化に伴い、株主様の住所変更その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

UD FONT



会社の概要 (2015年3月31日現在) Company Profile



社 名：株式会社ブイ・テクノロジー
設 立：1997年10月16日
本 社 所 在 地：横浜市保土ヶ谷区神戸町134 YBPイーストタワー9F
TEL：045-338-1980 FAX：045-338-1781

役員

代表取締役社長	杉本重人
専務取締役	梶山康一
取締役	和田正
取締役	勝原隆

常勤監査役	大倉修和
監査役	吾田啓一郎
監査役	住田勲勇

海外拠点

